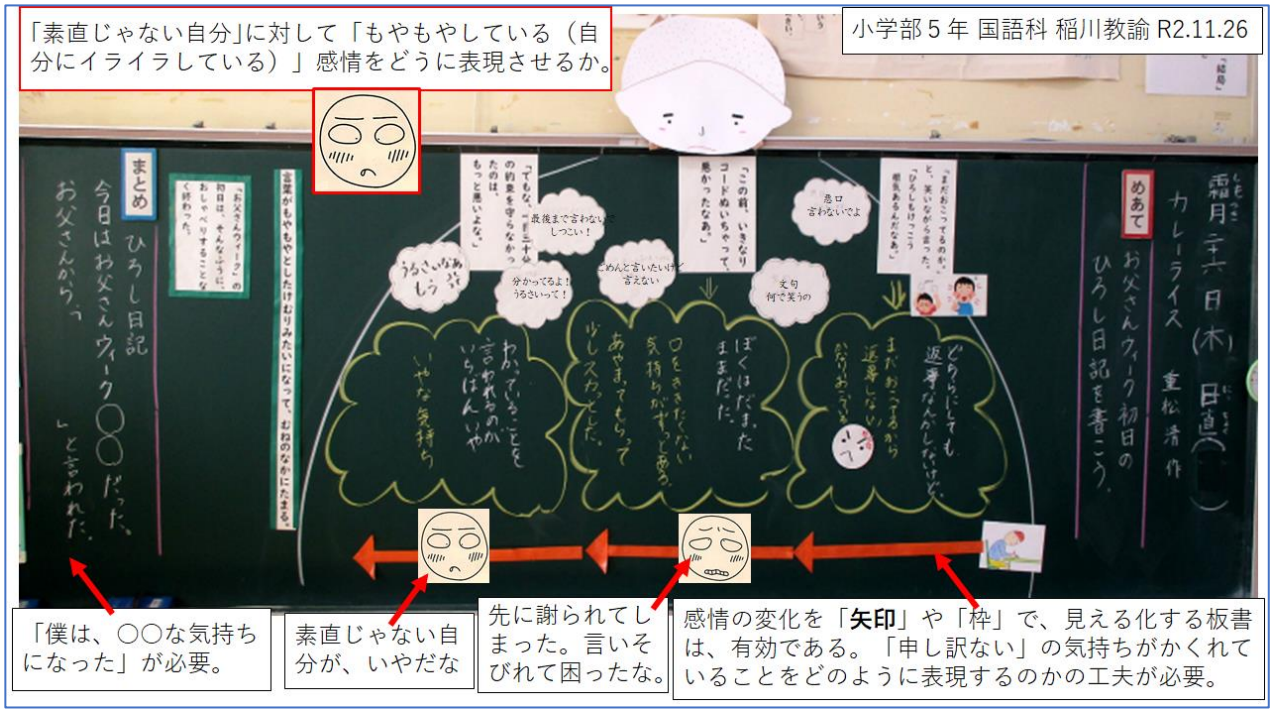
若年者研修（初任者研修）の授業研究会がありました。

令和２年11月30日（月）　篠原校長

若年者研修の授業研究会が、11月26日（木）に5年生国語科で、稲川教諭の授業で実施されました。「カレーライス　重松清作」を使って、父と小6の息子との日常のやりとりの中で、息子（ひろし）の気持ちの葛藤と変化・成長を読み取っていくものです。子供扱いされることへの反発、父親の話はもっともだと分かっていながらも素直になれない自分へのいらだち等、思春期にさしかかっている自分達の気持ちと共感できる題材です。子供達は、主人公の気持ちの変化を表情イラストや、吹き出しで整理しながら、学習プリントにまとめて発表していました。



「僕は、○○な気持ちになった」が必要。

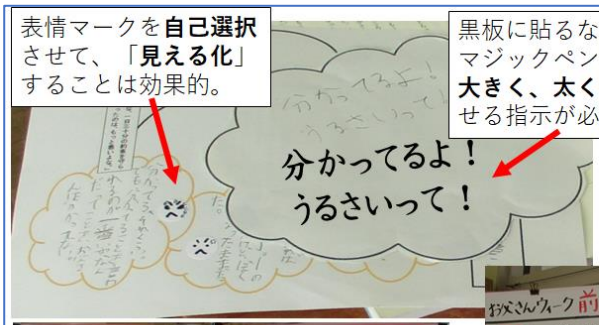
素直じゃない自分が、いやだな

先に謝られてしまった。言いそびれて困ったな。

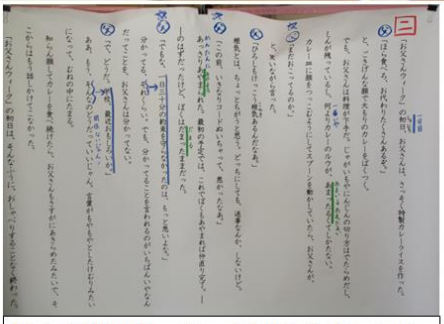
感情の変化を「**矢印**」や「**枠**」で、見える化する板書は、有効である。「申し訳ない」の気持ちがかくれていることをどのように表現するのかの工夫が必要。

表情マークを**自己選択**させて、「**見える化**」することは効果的。

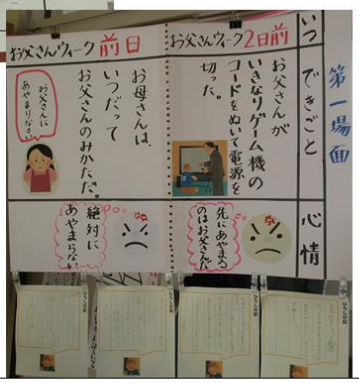
黒板に貼るならば、マジックペン等で、**大きく、太く**書かせる指示が必要。

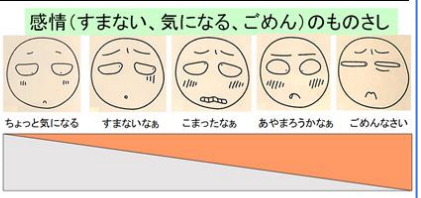


表情マークは、学習集団内で、**感情レベルの基準を共有化**しておく。
※色分け、怒り印の数、口の形や角度



拡大表記を使って、全員でポイントの箇所を共通確認するのは有効である。



「前時のまとめは、分かりやすく整理され、掲示されている。

「怒り」の他に「揺れる感情」を考えさせ、見える化することで、作者の意図に迫ることができる。